



しきさい
四季彩マラソンロードに
蜂須賀桜を植樹しました

とくしまマラソンのコースである吉野川沿いを桜並木や四季折々の花で彩ろうという「四季彩マラソンロード」プロジェクト。吉野川交流推進会議では、NPO法人「蜂須賀桜と武家屋敷の会」から苗木を提供していただき、平成23年（2011）から蜂須賀桜の植樹を行っています。

令和4年2月8日、石井町藍畑の六条大橋南詰めポンプ場の敷地に、蜂須賀桜の苗木5本を植樹しました。植樹後の維持管理を担当してくださるのは名神急送株式会社の皆さんです。根付くまでは灌水に注意が必要で、特に夏場の世話はたいへんです。多くの方の手で大切に守り育てられた蜂須賀桜が、今年も春の訪れを告げるピンクの花を咲かせています。



昨年度は、桜の維持管理の講習会を開催



約3mの蜂須賀桜の苗木を植樹しました



令和3年度総会は書面決議で

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度総会は書面決議としました。また、アドプト・プログラム吉野川参加団体・企業のうち、活動の顕著な団体・企業等には表彰状をお送りしました。

今年度の事業計画は次のとおりです。

交流事業

- ◆アドプト・プログラム吉野川の推進
- ◆子どもの交流体験事業の実施
- ◆地域イベントとの交流事業の実施
- ◆三大河川交流事業の実施（流域間交流事業）
- ◆国土交通省との共催事業の実施
- ◆「恵みの宝庫『吉野川』創造プロジェクト」との連携事業の実施

情報発信事業

- ◆機関誌「四国三郎吉野川」の発行
- ◆インターネットによる全国への情報発信
- ◆各種イベントでの活動のPR、パネル展など

会員の募集

- ◆イベント等で入会案内を配布し新規正会員、賛助会員を募集



県庁1Fすだちくんテラスでの「吉野川魅力発見パネル展」

交流体験 in よしのがわ

吉野川の豊かな大自然のなかで
親子で学び、遊び、ふれあおう

吉野川に親しんでもらうとともに、地元の人々との交流を通じて連携を深めてもらおうと、今年も上・中・下流の3か所で「交流体験 in よしのがわ」を開催。併せて水難事故防止講習も行い、川で遊ぶ時の注意、スローバックやライフジャケットの正しい使い方などをしっかり実習しました。



川での流され方、スローバックの使い方を学びました

上流編 池田ダム湖でラフティングを体験!! R3.7/25

ウォータースポーツパークとして整備が進む池田ダム湖で上流編を開催。三好ラフティングチームの指導で、小学生親子19名がラフティングに挑戦しました。パドルの操作方法を教わり、6~7人ごとにボートに乗り込みましたが、最初は思ったように進みません。かけ声を出し、息を合



せてパドルを漕ぐと、ボートはス～スイ。風を切って水面を走る爽快感を味わいました。水上相撲やウォータースライダーも体験し、水辺の楽しさを満喫した一日でした。



ボートで作ったウォータースライダーで、川へダイブ!!まさに「ウォーターパーク」

中流編 吉野川でカヌー体験 R3.7/22、8/1

中流編は四国三郎の郷付近で、恒例のカヌー体験! 毎年多くの申込みがあるので、今年度は2日に分けて開催しました。川の達人・AMEMBOのスタッフの指導で、パドルの持ち方、漕ぎ方や姿勢、カヌーの操作方法などを教えてもらい、小学生親子39名がカヌー体験を楽しみました。両日とも晴天で、川面から見る景色も最高! 吉野川に笑顔と歓声のはじけました。



流れがゆるやかで初心者や子どもも安心してカヌーを楽しむことができます

下流編 おさかな博士の川魚かんさつ R3.8/6

下流編は、井藤大樹さん(県立博物館主任学芸員)を講師に、鮎喰川・梁瀬橋付近で川魚観察会を行いました。魚のつかまえ方のレクチャーを受け、小学生親子14名が網を手に川へ。実習後は、つかまえた魚について先生が解説してくれました。この日は大漁(?)で、オイカワ、ヨシノボリなどおなじみの魚のほか、アカザやヌマチチブをゲットした人も! 多くの魚や水生生物が観察でき、川の美しさ、自然の豊かさを実感することができました。

